【高等学校用】

令和 4年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式１（高等学校）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校（全日制）

1　前年度 評価結果の概要	○昨年に続く、コロナ禍の中、保護者、生徒、教職員の協力で、今年度も進学、就職率の100％を達成できた。学校評価においても本校への満足度は高く、様々な活動に対する理解と協力を得ている。 ○コロナ禍における学びの形態が大きく変わろうとしている中、リーモート授業に対する職員の技術向上が求められる。また、実技・実習等、リモート学習が難しい教科については、学習の仕方や指導方法の工夫・改善が必要である。 ○志願者数の減少が引き続き危惧される中、「ものづくり」技術を活かした地域貢献活動を更に活性化させ、工業高校の魅力を伝える活動が必要である。 ○今後も教職員の働き方改革を推進する。また、出退勤管理システムを効果的に活用し、時間外勤務の縮減を図る。さらに、部活動へのかかわり方等を見直し、今年度以上に健康的で活気のある職場環境になるように改善・整備していく必要がある。
2　学校教育目標	広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ちた、社会に貢献できる工業技術人の育成を図る。
3　本年度の重点目標	①学力向上（主体的学びの定着） ②工業技術の習得（資格取得の奨励） ③心の教育（人権意識の向上） ④唯一無二の誇り高き学校づくり（学校の魅力のブラッシュアップ・情報発信）

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業の充実、指導方法の工夫・改善に関しての取り組み	○生徒の授業に対する理解度80％以上を目指す	・全職員が参加する相互授業参観を計画し、授業の充実、指導方法の工夫・改善につながる取り組みを各教科で行う ・タブレットPCの利用を推進し、生徒の理解がより深まる実践的指導を行う	B	1学期末のアンケートでは「どちらかといえば、はい」を含め生徒の80％以上が授業を理解していると答えている。2学期は、相互授業参観や生徒による授業アンケート等を行って更なる授業改善に努め、授業を十分理解していると答える生徒を増やしていきたい。	A	授業に対しては「どちらかといえば、はい」を含め、86％を超える生徒が理解している答えており、授業理解度はほぼ達成できている。 ICTを活用し、理解度を深める授業も定着しつつある。次年度も授業内容の充実、改善を継続し授業を十分理解していると答える生徒を増やしていきたい。	A	・目標は達成されていますが、更なる改善をお願いします。 ・「いいえ」の回答割合が減少しているので、1桁を目指して欲しい。 ・アンケートの生徒は高いのか？理解の浅い生徒に対する対応はどうなっているのか。 ・授業以外の家庭学習や本人の問題もあるとは思いますが、一般科目の底上げにあと一息よろしくお願いします。	教務主任 教科主任 学年主任
	○志を高め、希望進路の実現	○就職・進学の希望を100％実現する	・学習計画表を配布し、定期考査、模擬試験等に向けた家庭学習の定着を図る ・年間5回実施するキャリア・パスポートを基に、個々に合った進路情報の提供、進路指導の充実を図る	B	進路・学習指導に対して「どちらかといえば、はい」を含め生徒の92％以上が十分満足していると答えているが、2年生の満足割合が89％とやや少ない。進路・学習指導の個別最適化を図り、3年次の満足度アップを図りたい。	A	進路指導に対する満足度は生徒、保護者ともに90％を超えるいるが、保護者の満足度が7月に比べ12月は減少している。進路指導の取り組みが保護者に対して十分伝わっていないところがあると思われる。進路指導部からの情報発信を常に行い、相談しやすい進路指導室を目指していきたい。	A	・相談方法の多様化（電話、電子メールなど）で、相談しやすい環境づくりをお願いします。 ・12月集計の保護者数が減少しているのが気になります。 ・情報発信の方法を思考されたい。 ・進路指導に関しては進学、就職両面とも各科先生方の努力に感謝しております。	進路主任 教科主任 学年主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやり、社会性、倫理観、正義感、感動する心等、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○人権意識の向上が感じられた生徒を100％にする	・人権・同和教育講演会を行う ・情報の授業、LHRにおいて、情報モラル教育、人権教育を行う	A	人権意識の向上については、「感じられた」と答えた生徒がほぼ60％で、36％以上の生徒が「どちらかといえば、感じられた」と答えている。「感じられた」と答える生徒の割合をさらに増やすために、今後もあらゆる機会をとらえ、生徒に伝えていきたい。	A	人権意識の向上について「どちらかといえば、はい」を含め98％以上の生徒が高まっていると答えている。さらに7月から12月にかけて各学年ともにその割合も増加傾向にあるので、今後もこれまでの取り組みを続けていきたい。	A	・人権侵害の分かりやすい事例等を用いて、まずは自分を守り、次に他者を守るという意識や多様性についても学んで欲しいと思います。 ・細かく分析して欲しい。 ・今に満足されることなく、継続いただきたい。 ・生徒の意識向上に関しての取り組みに効果があると感じる。	人権・同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の強化・充実	○悩みを相談できる教職員がいるという生徒を80％以上にする	・いじめに関してのアンケートを年間に2回以上行う ・いじめ対応についての研修や啓発活動を年間に2回以上行う	A	ほぼ80％の生徒が悩みを相談できる職員が本校内にいると答え、学年が上がるにつれその割合も増えているので、今後も教職員からの積極的な声掛け等を行い、いじめの早期発見と対応を行っていきたい。	A	相談できる職員が校内にいると答える割合が生徒において、7月より12月の方が増えており、「どちらかといえば、はい」を含め81％以上である。本校では相談できる体制が整っており、本校の取り組みは良くできていると思われる。	A	・生徒への更なる声掛け等で早期発見に努めてください。 ・いじめは社会人になっても続きますので強化して下さい。 ・一方で相談できずにいる生徒もいるのでは。 ・心身両面において成長期にある生徒に対し真摯に取り組んでおられると感じる。	教育相談主任 生徒指導主任 学年主任
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	◎佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じるという生徒80％以上を目指す ★郷土の人材を活用した講演会等、全学年対象に年間1回以上行う	・佐賀県内各地域に関わる郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した教育活動に取り組む ・全学年対象に年間1回以上、郷土の歴史や文化を学ぶ講演会を行う	B	9％程度の生徒が佐賀県に誇りや愛着を感じていないと答えている。県外からの通学者も11％程度本校に在籍しているので、2学期以降の講演等を通して、更に多くの生徒が佐賀県に関心を持つよう取り組みたい。	B	佐賀県に誇りや愛着を感じていると答える生徒の割合を80％以上にする目標は達成できなかった。また、7月に比べ12月の方が減少している。とくに、全学年において「いいえ」と答えた割合が7月8.8％から12月9.8％と微増しており、講演会等のあり方を検討すると共に、佐賀県の魅力を伝える機会を増やしていきたい。	A	・結果の見えにくい取り組みだと思いますが、先生自身のの「ふるさと感」も交えた雰囲気づくりが大切だと思います。数字にこだわり過ぎないように。 ・講演会も有効ですが、生徒たちが課題を決めて、郷土のことを調べて発表・発信するなど能動的な活動を提案したいと思います。 ・自然と愛着は出てくると思います。 ・学校、家庭が連携して伝えていく必要がある。 ・努力されていると思います。	図書主任 3年担当
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を100％にする ○毎日、朝食をとる生徒80％以上を目指す	・生活状況調査、食に関する意識調査を行う ・全学年に食育に関する講演会を行う ・保健だよりを定期的に発行し、食に関する意識を高める	A	健康と食事に対する生徒の関心は高く、ほぼ全員が食事を大切と考えているが、朝食を毎日とるという生徒は90％程度である。目標は達成しているが、講演会や保健だより等で家庭での協力を更に得られるようにしていきたい。	A	朝食を毎日とるという生徒は「どちらかというとはい」を含め、90％を超えている。しかし、12月のアンケートで2年生の6％が「いいえ」と答えている。学校の指導、家庭の協力を更に求める必要がある。	A	・月に1回程度、朝の始業前におにぎりを提供するなどの試みをPTAと連携して行ってはどうでしょう。 ・早弁していないといいのですが。 ・今は良くても、社会に出てからも継続していけるように家庭でも対応したい。 ・男子生徒が多いと思いますから、朝起きて朝食を取るより眠っていたいという思いが強いかもしれません。おにぎりでも良いので朝食をとるように。	保健主事 食育担当者
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故件数0（ゼロ）を目指す	・交通安全に関する講演会・講話を行う ・自転車安全点検を年間に2回以上行う ・職員による街頭指導を定期的に行う	B	交通安全に対する生徒の意識調査では、ほぼ全員が「交通安全に注意をしている」と答えているが、今年度10月までで交通事故が8件発生し、交通事故ゼロは達成できなかった。すべて自転車に関する事故であり、今後も引き続き交通安全指導を計画的に行っていく。	B	交通安全の意識は生徒自身は非常に高く、ほぼ100％に近いものの、今年度の交通事故ゼロは達成できなかった。特に自転車乗車中の事故の割合が多く、今後の交通安全指導も教職員、保護者の協力のもと、更なる指導を引き続き行っていく。	B	・自転車の安全走行の為規則の周知や危険個所の点検を行い、警察や行政と協議し、環境委改善を図ってはどうでしょう。 ・鳥栖は交通量が多いので厳しくお願いします。 ・継続した教育を期待しています。 ・信号を無視した自転車を時折見かけます。非常に危険です。	生徒指導主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の縮減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・月曜日を定時退勤日とする ・学校閉庁日を設定する ・部活動休養日を設定する ・会議の精選や会議時間の短縮を図る	B	76％の教職員が勤務時間を意識した働き方を「実行できている」と答えており、昨年度より1％だが増加した。部活動の休養日（平日1回、休日1回）の設定が浸透しつつある。部活動指導の在り方についてもを更に適正化する必要がある。	B	12月は81％の教職員が勤務時間を意識した働き方がほぼできていると回答している。部活の休養日に関しては「あまり守れなかった」と答えた職員が7％程度存在している。一部の部活動指導者が「守れていない」と回答しているので、改善を促したい。	B	・守れていないことの原因を究明して全職員で「働き方改革」を更に進めてください。 ・教職員増加が理想では？ ・体調に気を付けて、業務にあたって欲しい。 ・部活担当の先生等無理をなされませんよう。81％の職員さんも本音はいかがか？	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★工業技術・スポーツ分野における全国大会等での上位入賞 ★県外からの入学志願者数の増加	★全国大会等での上位入賞者数、5名以上を目指す ★県外からの入学志願者数、募集定員の10％以上を目指す	・工業技術・スポーツ分野において、生徒の可能性・潜在能力を十分に引き出す指導を適正かつ科学的に行う ・学校のホームページや学校紹介リーフレット等を活用し、情報発信を効果的に行う	A	インターハイでは5名が上位入賞（6位以内）を達成し、国体でも1位1名、2位2名、3位1名の入賞者を出すことができた。 ホームページの更新や学校紹介等を効果的に行い、県内外からの入学希望者の増加に努めたい。	A	インターハイでは5名が上位入賞（6位以内）を果たし、国体でも1位1名、2位2名、3位1名の入賞者を出すことができた。また、工業系部活動でも全国大会出場及び3位入賞などの活躍が目立った。ホームページの更新や学校紹介等を効果的に行い、県内外からの入学希望者の増加に努めたい。	A	・今後ともご指導よろしくお願いします。県内及び近県在住の卒業生に同窓会を通じて入学案内を送り、勧誘を行ってはいかがでしょう。 ・メディア等の協力を得て、積極的なPRが必要と思います。 ・すばらしい結果も残されており、先生方、生徒のみなさんの努力に評価大だと思います。	部活動顧問 教務主任 情報部主任
○工業技術の習得	○資格取得の奨励	○各生徒が1つ以上の資格を取得する	・各工業科において、資格取得を奨励し、その資格の必要性と将来性を紹介するとともに補習体制を強化する	B	生徒の資格取得希望の割合については、88％の保護者が希望しているが、生徒自身は73％と高くない状況である。生徒が資格取得の重要性を理解し、かつ合格率が向上するよう指導していきたい。	A	職員の指導体制は十分と考えられている。3学期は資格取得の機会が少ないことから、12月の調査では保護者、生徒ともに資格取得の希望割合は減少している。今年度ー年間に資格を取得した生徒の割合は、学校外での資格も含めると、1月の調査で、86.31％であった。また、3年生で本校在籍中に資格取得をした生徒は99％で、ほぼ全員の資格取得ができている。	A	・先生方のたゆみないご指導の賜物と深く感謝申し上げます。 ・資格取得後をどう活用するかも必要と思います。 ・何を持っての指導体制は十分と判断されているのかが不明。 ・工業技術に対する生徒の誇りを大きく育てて頂いていると感じます。	各工業科主任

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育　★･･･唯一無二の誇り高き学校づくり（高等学校のみ）

5　総合評価・ 次年度への展望	・コロナ禍三年目を迎える中、保護者、生徒、職員の協力で、今年度も進学、就職率の100％を達成できた。学校評価においても本校への満足度は高く、様々な活動に対する理解と協力を得ている。学校関係者評価も良好である。 ・コロナ禍における学びの形態が大きく変わろうとしている中、リーモート授業に対する職員の技術向上が求められる。また、実習など、リモート学習が難しい場合の取り組み方の工夫が必要である。 ・志願者率の低下が引き続き危惧される中、「ものづくり」技術を活かした地域貢献活動を更に活性化させ、工業高校の魅力を伝える活動が必要である。 ・今後も教職員の働き方改革を推進する。また、出退勤管理システムを効果的に活用し、時間外勤務の縮減を図る。さらに、部活動の在り方等を見直し、今年度以上に健康的で活気のある職場環境を整えていく必要がある。